
OB 通信

2010 年 No.2
(2010.6)

第 63 回東北学生陸上競技対校選手権大会

・ 3 種目で新たに部記録が誕生！！

杉本和志(3)が男子やり投で 66m00 の部記録樹立

及川まりや(2)が女子 1500m で 4'38"17、女子 5000m で 17'06"88 の部記録樹立

・ 第 13 回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2 ページ
・ 春合宿	3 ページ
・ 東北学連春季競技会	3 ページ
・ 宮城強化記録会	3 ページ
・ 宮城県春季陸上競技選手権大会	4 ページ
・ 平成 22 年度春季三秀総会	5 ページ
・ 第 63 回東北学生陸上競技対校選手権大会	6～14 ページ
・ 自己記録更新者一覧	14 ページ
・ 今後の予定	15 ページ
・ 編集後記	15 ページ

初夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

今号では主に第 63 回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果をお伝えします。

第 13 回日本学生ハーフマラソン選手権大会(3/14) 於 立川

例年通り、冬期練の総まとめとして男子は基本的に長距離全員が立川で行われたハーフマラソンに参加しました。

当日は 3 月にしては気温が高く、また多くの部員が万全の状態とはいえない中でレースに臨んだこともあり、記録は全体として低調であった。島田(M1)、早坂(3)、林(M1)が自己記録を更新し、歴代上位に名を連ねた。しかし、トラックの持ちタイムからすれば満足のいく記録を残せた者は少なかった。今後の記録更新に期待したい。

女子一般の部は永井(M1)のみの出場であったが、自己の持つ部記録を 1 分更新する快走で見事優勝を果たし、冬期練が順調に進んでいることを伺わせた。

● 男子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
島田 健作(M1)	1"09'35"	291
早坂 達也(3)	1"09'45"	302
斎藤 純(M1)	1"10'29"	328
林 亮輔(M1)	1"10'57"	338
木村 慎太郎(1)	1"13'32"	410
平 聖也(4)	1"13'49"	416
菅野 均(1)	1"14'47"	439
箭内 正輝(3)	1"15'34"	455
杉山 祥太郎(1)	1"15'41"	459
尾形 翔平(1)	1"17'08"	484
工藤 佑馬(2)	1"17'31"	492
近藤 一樹(1)	1"18'36"	505
森部 峻介(1)	1"18'56"	510
南 敦(1)	1"19'30"	515
石代 剛之(1)	1"20'54"	532
木谷 幸亮(1)	1"22'11"	543

● 女子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
永井 瑞希(M1)	1"20'56"	1

#春合宿(3/15～19) 於 上尾運動公園陸上競技場

今年は昨年とは違い、埼玉の上尾で合宿を行いました。備品を自由に使用可能であったこともあり、内容の濃い練習を行うことができました。また天気にも恵まれ、昨年の課題であった怪我人の数も今年は減らすことができ、シーズンに向けての良い調整を行うことができました。

#東北学連春季競技会(4/10～11) 於 仙台市陸上競技場

今年もシーズン初戦となる東北学連春季競技会が行われました。まだ調子の上がない選手が多く見られましたが、男子 400mH、男子 1500m、男子 5000m では自己ベストを出す選手も多く見られました。結果の一部を紹介します。

● 男子 1500m

組	氏名(学年)	記録	順位
3	菅野 均(2)	4'17"67	2着
	近藤 一樹(2)	4'18"51	3着
	高田 健伍(2)	4'21"06	7着

● 男子 400mH

組	氏名(学年)	記録	順位
5	一ノ倉聖	57"96	2着



男子 5000m に出場した
石代、杉山、箭内



男子走幅跳で 6m99 の跳躍を見せた鈴木

#宮城強化記録会(4/18) 於 仙台市陸上競技場

主に短距離選手が出場しましたが、思うような結果を出すことができず、東北インカレに向けての課題の残る結果となりました。

組	氏名(学年)	記録	順位
2	鈴木 一輝(3)	23"17(-1.7)	4着
	高林 佑輔(3)	23"32(-1.7)	5着
4	中野 一誠(M2)	24"01(-1.4)	4着

#宮城県春季陸上競技選手権大会(4/24~25) 於 宮城スタジアム

利府町の宮城スタジアムで行われました。一ノ倉(4)が110mHで自己ベストの走りを見せました。またリレー種目が調子良く、4継、マイルともに3位となりました。

● 400m

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
4	9	遠藤 智之(4)	52"54	2着
6	1	望月 明人(M1)	52"95	3着
11	2	高林 佑輔(3)	51"39	2着

● 110mH

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
2	4	一ノ倉 聖(4)	15"79(-1.4)	2着
決勝	7	一ノ倉 聖(4)	15"54(+1.3)	4位

● 400mH

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
2	7	柴田 智弘(M1)	60"03	3着

● 5000m

組	オーダー	氏名(学年)	記録	順位
1	9	早坂 達也(4)	15'27"41	9着
	3	林 亮輔(M2)	15'32"46	12着

● やり投

氏名(学年)	記録	順位
稲田 和明(2)	48m23	12位

● 4×100mR

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
6	2	青柳(D1)-伊藤(2)-鈴木(3)-高林(3)	43"09	1着
決勝		青柳(D1)-伊藤(2)-鈴木(3)-高林(3)	42"88	3位

● 4×400mR

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
5	5	柴田(M1)-高林(3)-青柳(D1)-遠藤(4)	3'22"57	1着
決勝	8	高林(3)-青柳(D1)-遠藤(4)-柴田(M1)	3'22"91	3位

#平成22年度春季三秀総会(4/21) 於 片平桜ホール

まず出席者一同で物故会員の方々に一分間の黙祷を捧げました。その後、佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長から挨拶がありました。

議長には田中裕志(M2)が選出されました。佐藤会長、久保正樹さんより幹事推薦、彦坂副会長より立替払い金の処理に関しての中間報告がありました。

(1)新たな幹事の推薦

まず、久保幹事から以下の2名が新たな幹事として推薦されました。

伊藤 繁和(H5年卒)

工藤 圭(H15年卒)

次に、三秀会地区支部通則第六条「本会会長は地区支部長を本会幹事に推薦する。」に則り、既に幹事である関西支部長の対馬氏を除く以下の2名が、佐藤会長から推薦されました。

関東支部長 川野部 修(S48年卒)

東海支部長 畑山 峻(H18年卒)

承認され、上記4名が新たに三秀会幹事となりました。

(2)立替払い金に関しての中間報告

- ・現在、立替払いをしたままの状態にある人のうち、住所の判明している人については詳細を記した書類を送付している。
- ・判明していない方に関してはOBの同期の方などを通して連絡をとる予定であるが、もし連絡が取れなかった場合は、申し訳ないが会員より全体負担という形をとらせていただき、処理したいと考えている。

その後、新入部員の紹介が行われ、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。

出席して下さった先輩方(敬省略)

小野寺純雄 宮崎鉄男 佐藤源之 眞山隆徳 岩松正記 彦坂幸毅 菅野均志

久保正樹 吉田真人 工藤圭 小平圭一 青柳光裕 田中裕志

ご出席ありがとうございました。抜けている方がいらっしゃるかもしれませんがご容赦ください。(特に院生の方)

第 63 回東北学生陸上競技対校選手権大会(5/14~16) 於 仙台市陸上競技場

男子総合 5 位。4 位であった昨年と比べると 1 つ順位を落とす結果になってしまいました。しかし女子 1500m、女子 5000m と男子やり投において部記録が誕生し、今後の北大戦、七大会にも期待が高まります。

トラック

男子 100m 予選

- 1-7 3 着 伊藤 亮輔(2) 11"31(+1.6)
4-4 4 着 青柳 光裕(D1) 11"16(+2.8)
5-7 5 着 中野 一誠(M2) 11"79(+0.7)

伊藤は怪我明けで不安があり、スタートで出遅れたが、持ち前の加速力でぐんぐんと挽回し、3 着でフィニッシュ。

青柳はスタートから両隣りの選手に差をつけられたが、後半徐々に差を縮め、4 着でフィニッシュ。

中野はスタートで遅れるも長身を生かした走りで猛追し、5 着でフィニッシュ。

男子 100m 準決

- 1-2 8 着 青柳 光裕(D1) 11"45(+0.7)

曇り空で非常に肌寒い中でのレースとなった。青柳はスタートでやや出遅れ、先頭と離されてしまい必死に食らいついたが及ばず、8 着でフィニッシュ。

男子 200m 予選

- 4-7 4 着 中野 一誠(M2) 23"72(-0.1)
5-8 2 着 伊藤 亮輔(2) 23"50(-0.5)
6-5 3 着 青柳 光裕(D1) 23"37(+0.3)

中野は好スタートを決め、前半 100m は 3 番手ぐらいにつけたが、後半少し硬くなり結果は 4 着。

伊藤は出だしでやや遅れたが、持ち前の加速力で前をとらえた。最後には激しい 2 着争いに競り勝ち、準決勝へと駒を進めた。

青柳は好スタートでカーブを 4 着で通過

し、後半粘りをみせ 3 着でフィニッシュ。

男子 200m 準決

- 1-2 6 着 伊藤 亮輔(2) 23"04(-0.5)

抜群のスタートを決め加速していったが、カーブを越えたあたりで内側の選手にさらわれてしまった。ラストは向かい風の中、何とか差を保ったが、つめきれず 6 着でフィニッシュ。



写真：200m 準決勝での伊藤

女子 200m 予選

- 2-2 7 着 房内 まどか(2) 28"72(±0.0)

スタートの反応は良かったが上体が早く起きあがってしまい他の選手に遅れをとった。中盤は粘りの走りを見せるが前の選手をとらえることができず、7 着でフィニッシュ。

男子 400m 予選

- 2-7 3 着 遠藤 智之(4) 51"02
3-3 棄権 田中 裕二(M2)
4-3 5 着 高林 佑輔(3) 50"56

遠藤は内側の選手との差を保ちレースを進めたが、200m 過ぎに並ばれ、3 番手でレース後半を迎えた。粘りのある走りで追撃したが結果は 3 着

田中は足の怪我のため欠場。実績のある選手なだけに残念ではあったが、今後の活躍に期待したい。

高林は安定感のある走りを見せ 200m 付近で外側の選手をとらえた。しかし、後半失速し、内側の選手に並ばれる形でフィニッシュとなった。

女子 400m 予選

1-8 7 着 房内 まどか(2) 65"20

好スタートするも 100m 付近で内側の選手に追いつかれた。バックストレートで粘るが、差が開き後半は完全に追いかける形となってしまった。

男子 800m 予選

1-5 5 着 本間 亮太(4) 2'01"20

2-4 3 着 辻川 優祐(2) 2'00"89

4-3 4 着 大野 良輔(2) 2'00"53

1 組目の本間は前半からトップを走り、1 周目を 57 秒で通過。そのまま逃げ切ると思われたが、ラスト 300m で徐々に後退し、5 着となった。

2 組目の辻川は序盤は後方につけ、1 周目を 3 番手 59 秒で通過。スパートではキレのある走りを見せたがトップ争いには絡めず、3 着。

4 組目の大野は後方につけ、1 周目を 58 秒で通過。ラスト 300m で猛スパートを見せたが、途中で力尽き 4 着でゴール。

今回、怪我後や就活などで本来の力を出せた選手はいなかった。次の大会では全員 1 分台を出してほしい。

女子 800m 予選

1-7 6 着 荒木 佳那子(3) 2'44"96

2-7 6 着 須藤 彰子(M1) 2'46"35

昨年に引き続き須藤と荒木が出場した。

1 組目の荒木はスタートで若干リードしたものの 200m 前後で徐々に離され、1 周目を 73 秒で通過。2 周目で前との差を縮めることができず 6 着。

2 組目の須藤は序盤から大きく離され、苦しい展開。その後も挽回できず 6 着。

2 人とも 2 周目のラップが大きく落ちるため、今後はスタミナが課題である。

男子 1500m 予選

1 組 9 着 尾形 洋平(3) 4'15"90

10 着 菅野 均(2) 4'21"78

2 組 6 着 木村 慎太郎(2) 4'11"61

1 組目には昨年もこの種目に出場した尾形と成長著しい菅野が出場。2 組目には厳しい部内選考を勝ち上がった木村が出場した。

1 組目、レース前半は 2 人とも中盤につけ、約 70 秒で 1 周目を通過と様子を伺う。2 周目には全体的にスピードが上がり、菅野が徐々に遅れ始める。尾形は必死に食らいつき、6 番手を争う。3 周目はさらにペースが上がり、尾形は先頭集団後方をキープしようとするも、徐々に遅れ始め 9 着。菅野も後半で追い上げることができず 10 着。

2 組目の木村は最後尾につけて余裕をもってスタート。1 周目は約 66 秒と順調な滑り出し、2 周目も離されることなく約 67 秒で通過。3 周目には徐々に順位を上げ、先頭集団の後ろにつける。しかしラスト 300m 付近で先頭のスピードが上がり、必死に食らいつき順位を上げていくも先頭争いに加われず、6 着。

今回は準決勝に進めなかったが、尾形は

足の調子が良くない中でも健闘し、菅野も良い経験となったであろう。木村も初挑戦ながらあと一步の走りを見せ、今後の活躍に期待したい。

女子 1500m 決勝

- 2位 及川 まりや(2) 4'38"17**
17位 千葉 絵里子(4) 5'13"49
21位 佐藤 仁美(3) 5'32"85

昨年に続き部記録更新が期待される及川と、何とか得点争いに絡みたい千葉と佐藤が出場した。

レース始めから及川が先頭に立ちレースを引っ張る。千葉と佐藤は後方からのスタート。1周目を及川は70秒、千葉は76秒、佐藤は78秒で通過する。2周目に入ると他大の2人が集団から前に抜け、及川は3番手につける。千葉は中盤で耐えるが、佐藤は離される。及川は1000mを過ぎたあたりで前の選手に離されるが、ラストに驚異的な追い上げを見せ2位。千葉もラストの追い上げで数人を抜き17位。佐藤は粘ることができず21位。

及川は優勝こそならなかったものの部記録を更新する走りを見せた。千葉と佐藤は本調子とはいかず、苦しいレースとなった。今後この悔しさをばねに頑張してほしい。

男子 5000m 決勝

- 2位 斎藤 純(M2) 15'01"32**
5位 大場 直樹(4) 15'07"82
11位 早坂 達也(4) 15'27"23

昨年に引き続き上位入賞を狙う斎藤と大場、調子を上げてきている早坂が出場した。

序盤、早坂が先頭付近に出る積極的な走りを見せる。斎藤と大場は集団の中程をキープ。3000m付近でレースが動き始め、早坂が遅れ始める。斎藤と大場はペースの上

りに対応し、徐々に順位を上げる。しかし1位との差は開いてしまう。ラスト1周に入ると斎藤と大場はギアをチェンジし表彰台を狙う。斎藤はラスト300mで前の選手をとらえ、最後まで粘り2位でフィニッシュ。大場も途中苦しくなったが、気合のスパートで5位。早坂も必死の走りで11位。

2位の斎藤は就活で思うように走れなかった中で結果を出し、さすがであった。大場は惜しくも表彰台を逃したが、この悔しさを今シーズンの大会にぶつけて欲しい。後半に失速した早坂はこの経験を活かして今後の大会での活躍を期待したい。



好走する大場と斎藤

女子 5000m 決勝

- 3位 及川 まりや(2) 17'06"88**
10位 永井 瑞希(M2) 18'23"78
18位 大淵 真波(M2) 19'53"52

1500mに続き、表彰台を狙う及川と10000mのリベンジを狙う永井、レース経験豊富な大淵が出場した。

スタート直後に飛び出した福祉大の2人に及川は負けまいと付いて行き、永井は第2集団、大淵は後方に付ける。及川を含む3人はどんどん後方と差をつけていき、この3人でトップを争う。永井は1000mを過ぎると第2集団からこぼれる苦しい走りとなる。

大淵は調子が悪いのか後方から立て直すことができない。4000m までトップ争いをする及川は優勝も狙えるかと思われたが、1位の選手がペースを上げ離される。必死に2位をキープするもラスト 150m で抜かれて3位となる。永井はラストに粘りのスパートを見せたが10位と入賞には及ばなかった。大淵は苦しいレース展開の中も必死に走り、18位。

怪我を抱えた中でも3位に入った及川のレースは実に見ごたえがあった。今後は怪我を治し、更なる活躍を見せて欲しい。永井と大淵は明らかに不調であった。実績は十分なだけに早期の復調を期待したい。



表彰台での及川

男子 10000m 決勝

- 7位 大場 直樹(4) 31'35"46
- 8位 林 亮輔(M2) 31'39"36
- 14位 島田 健作(M2) 33'24"46

昨年も10000mに出場し、実績のある島田と大場、初出場ながら近年急激に記録を伸ばしている林の3人が出場した。

序盤、大場が2番手、林と島田は先頭集団の少し後ろにつき、レースを進める。途中2000m付近で島田が遅れ始める。大場、林は序盤と変わらず順調にレースを進め、

6000m 付近で大場が先頭に立ち、レースを引っ張り始める。一方、島田は差を広げられ、つらい展開となる。9000m 付近で大場が遅れ始め、徐々に順位を落とすも必死の走りで7位。林も8位で続いた。島田は立て直せないまま14位という結果となった。

今回のレースでは3人もラストまで持ちこたえることができず、悔しいものとなった。

女子 10000m 決勝

6位 永井 瑞希(M2) 38'15"03

全女や各種対校戦で大活躍の永井が出場した。

序盤、一団となってレースを進め、永井は2番手でじっくりとレースを進める。ところが4000m 付近で徐々に遅れ始める。5000m 以降も先頭とはどんどん差が広がり、最下位におちてしまう。ラストはキレのあるスパートを見せたが結果は6位。

今回は体調不良により苦しいレース展開となった。この悔しさをばねに次の大会ではいつも以上の走りを見せてくれるだろう。

男子 110mH 予選

- 1-3 3着 岩崎 辰哉(4) 15"17(+0.8)
- 2-3 3着 一ノ倉 聖(4) 15"66(+1.5)
- 2-6 6着 永井 雅人(D3) 16"22(+1.5)

岩崎は隣の選手のフライングにも動揺することなくスタート。中盤まで2位をキープし、ラストに抜かれるも後ろの選手を大きく引き離し3着でフィニッシュ。

一ノ倉は1台目を引っかけたが、バランスを崩すことなく粘りの走りを見せた。中盤以降、激しい3着争いを繰り広げるがラストには競り勝った。

永井は前半からやや遅れた。必死に追い上げたが、前の選手を捕えられず6着。

男子 110mH 決勝

7位 岩崎 辰哉(4) 15"59(+0.0)

8位 一ノ倉 聖(4) 15"82(+0.0)

岩崎は素晴らしいスタートを見せ、表彰台に乗れる順位に位置していたが7台目でバランスを崩してしまった。バランスを崩さなければかなりの好記録であったと思われるだけに悔しい結果となった。この悔しさをばねに主将としても七大戦などでの活躍に期待したい。

一ノ倉は良いスタートであったが3台目あたりで周りとの差が広がる。その後必死に食らいつくも挽回叶わず8位。タイムは悪くないので更なるレベルアップを図りたい。

男子 400mH 予選

1-8 棄権 田中 裕志(M2)

2-5 4着 柴田 智弘(M1) 56"31

3-2 7着 加藤 聡(M2) 59"42

田中は400mと同様に欠場。早期の回復に期待したい。

柴田は序盤の100mは快調な走りを見せたが、バックストレートで内側の選手にとらえられてしまった。その後必死に食らいつき粘りを見せたが4着。

加藤は1台目まで良い走りであったが、その後徐々に他の選手に離されてしまった。この苦しい展開の中、終盤に粘りの走りを見せたが及ばず、7着でフィニッシュ。

男子 3000mSC 決勝

5位 川口 亮平(D1) 9'40"27

6位 尾形 翔平(2) 9'40"65

15位 箭内 正輝(4) 10'02"86

尾形は序盤からトップに立ち、積極的なレースを展開する。川口、箭内は集団の中

程につける。その状態でレースに動きがないまま1000mを過ぎると川口は徐々に順位を上げ、逆に箭内は順位を落としてしまう。尾形は6番手をキープし、危なげなくレースを進める。2000mを過ぎると集団は大きくばらけ始める。尾形は前の選手についてラストスパートに入る。川口も猛烈なラストスパートで尾形をとらえ5位。次に尾形が続き、6位。箭内も必死のスパートをかけ、15位。

ベテランの川口はさすがの走りを見せた。尾形も初の東北インカレながらも好走を見せた。箭内は本来の走りに近づいてきたようで、今後の活躍が期待できるであろう。



前の選手に必死に食らいつく尾形

男子 4×100mR 予選

1-3 3着 42"91

青柳(D1)-伊藤(2)-鈴木(3)-高林(3)

気温が非常に低い状況の中行われた。青柳は他の選手のフライングにも動じず、落ち着いてスタートを切った。しっかりと加速にのった走りで、2走の伊藤へスムーズにバトンを渡した。伊藤もピッチを刻み、順調に加速していき3走の鈴木へバトンを繋いだ。鈴木はしっかりと加速した走りで猛追し、外側の選手に並んで4走の高林へバ

トンプス。高林は前の選手にくらいつき、粘りのある走りを見せ3着でフィニッシュ。

男子 4×100mR 決勝

7位 42"77

青柳(D1)-伊藤(2)-鈴木(3)-高林(3)

1走の青柳はスタートでやや遅れるもスムーズな加速で2走にバトンをつなぐ。2走の伊藤は少し硬くスピードに乗れないまま3走の鈴木へ。少しトンプスでつままったものの鈴木は必死の走りで高林へつなぐ。危なげなくバトンが渡り、高林は順位を上げようと必死に走り、6位でゴール。

気温の低い中でのレースであったので今後はもっと良い記録が出てくるだろう。

女子 4×100mR 決勝

7位 54"27

田桑(2)-房内(2)-下島(1)-中山(1)

1走の田桑は不安視されていたスタートを上手く決めるが、やや他のチームから離される。2走の房内は順調に加速するも前との差を縮めることはできない。3走の下島も懸命に追うが差は縮まらず、アンカーの中山へ。中山も必死に走るが順位は上げられず、7位。

まだ低学年でのメンバーであるので、今後どんどん伸びていくことだろう。

男子 4×400mR 予選

1-3 4着 3'25"33

瀧澤(4)-遠藤(4)-望月(M1)-柴田(M1)

1走の瀧澤は三段跳の後で疲れもあるかと思われたが、疲れを見せない粘りの走りで遠藤へとバトンをつなぐ。遠藤は積極的な走りで前との差をつめ、5番手で望月へ。望月は順位を上げようと懸命の走りをする

が、やや離される。ラストの柴田は前半から攻めるもなかなか差を縮めることができない。残り30mで前の選手をとらえ、4着でフィニッシュ。

2組目の結果後プラスで拾われ、決勝進出を果たした。

男子 4×400mR 決勝

5位 3'20"90

瀧澤(4)-高林(3)-遠藤(4)-柴田(M1)

前日とはメンバーが少し変わり、短距離PCの高林が出場した。

1走の瀧澤は勢いよく飛び出し、着実に前との差をつめていく。250m付近で外側の選手をとらえるも、その後伸びず6番手でバトンは2走の高林へ。高林は積極的に攻め、仙台大と5番手を争う。終始争いは続きほぼ同時に3走へ。3走の遠藤は仙台大に遅れをとるが学院大をとらえ、5番手でアンカーの柴田へ。柴田は前半から果敢に攻めるもなかなか差は縮められない。後半に失速して後ろのチームにとらえられそうになるが、粘りの走りで5位。

今回は万全ではなかったが、好タイムを出すことができた。今後は更なる好記録を狙っていけるだろう。



粘りの走りを見せる高林

フィールド

男子走高跳 決勝

7位 永井 雅人(D3) 1m80

永井は 1m70 を少し詰まるも危なげなくクリア。1m75 の 1 回目は失敗するも 2 回目には調整し、足が軽く当たったがクリア。1m80 は 3 回目にバーにかすったがクリア。1m85 は高さが足りず、結果は 7 位。

男子棒高跳 決勝

4位 白井 孝明(M1) 4m00

高橋 理寛(2) NM

昨年に引き続き白井と高橋が出場。2 人とも表彰台という期待の中、行われた。

白井は 4m00 を 1 回目で危なげなくクリア。次に 4m20 に挑戦したが頂点をバーの所に合わせることができず失敗。その後も調整し直すことができず、4m00 で 4 位。

高橋は 4m00 から挑戦したが、勢いはあるものの高さを出せず失敗。2 回目でも足があたった。3 回目にも調整ができず失敗。

白井、高橋ともに実力的には表彰台を狙えたが、力を出し切れなかった。特に高橋は記録なしと悔しい結果。今後はこの悔しさをばねに調子を取り戻してほしい。

男子走幅跳 決勝

6位 永井 雅人(D3) 6m76(+2.0)

9位 鈴木 一輝(3) 6m59(+1.6)

17位 安井 令(2) 6m25(+1.1)

永井は 1 跳目から 6m71 を跳び、出だしは好調であった。3 跳目に 6m76 とさらに記録を伸ばし、決勝に 5 位で通過。決勝では足が合わず記録を伸ばせないまま 1 人に逆転されて 6 位。

鈴木は足に違和感があり、不調であった。2 跳目に 6m59 を跳ぶも納得のいく跳躍は

できず、惜しくも 9 位で決勝に進めなかった。今シーズン追参ながら 6m99 を跳んでいる鈴木にとっては悔しい結果となった。

安井は練習では 6m 後半を跳んでいるため入賞が期待されたが、自分の跳躍ができなかった。踏切前にスピードが落ち、フェールを怖がった跳躍が目立った。今後は緊張感にも負けず、大会で自分の跳躍ができる強さを身に付けて欲しい。

男子三段跳 決勝

2位 瀧澤 翔太(4) 14m59(+3.9)

6位 岩崎 辰哉(4) 13m81(+3.0)

永井 雅人(D3) NM

経験豊富な瀧澤、岩崎、永井が出場した。

瀧澤は 1 跳目から 14m26 の好記録で 2 位に付けた。2、3 跳目は記録を伸ばせなかったものの、まだ記録を伸ばせる可能性のある跳躍であった。決勝には 2 位通過。5 跳目に 14m59 で 1 位へ躍り出た。しかし、6 跳目に逆転され惜しくも 2 位。

岩崎は 1、2 跳目では高さが出ず振るわなかったが、3 跳目に 13m81 をマーク。決勝には 5 位通過するも記録を伸ばせず、逆転を許し 6 位。

永井は強風の影響か足が合わず、記録を残すことができなかった。



跳躍前に気合を入れる瀧澤

男子砲丸投 決勝

8位 柳澤 邦彦(2) 11m86

3投目で11m86をマークし8位で決勝へと進むも記録を伸ばすことができなかった。実砲丸が押しきれず、右にそれる投げが目立った。力はあるだけに七大戦までには調子を取り戻してほしい。

男子円盤投 決勝

3位 柳澤 邦彦(2) 41m71

15位 山崎 大志(1) 28m40

16位 榊原 和也(1) 19m89

昨年大活躍の柳澤と新生生の2人が出場。

柳澤は1投目に39m90を投げ、決勝進出には安泰の投げをしたが、円盤に伸びはなかった。3投目までに記録を伸ばせなかったが1位で決勝へと進んだ。4投目で41m71を投げ、優勝を狙えるかと思われたが、5、6投目で2人に逆転を許し、3位。

初出場の山崎は1投目で28m40を投げた。まだまだ体力の戻っていない中、なかなかの好記録であった。まだ改善の余地が多々あるので更なる記録を狙えるだろう。

同じく初出場の榊原はやり投の選手ながら出場。まだまだ形ができていなかったが、今後の練習で身に付けて行ってほしい。

男子ハンマー投 決勝

10位 稲田 和明(2) 21m14

1投目、高さは出なかったものの21m14を投げた。2、3投目には安定した投げができず、ファール。まだまだ発展途上であるので今後の活躍に期待したい。

男子やり投 決勝

2位 杉本 和志(3) 66m00

9位 高橋 航(1) 51m96

11位 伊勢 只義(M2) 49m08

部内選考会を勝ち上がった杉本、伊勢と新生生の高橋が出場しました。

杉本はとても調子良かった。1投目から60mを越える投げを見せ、2投目には部記録となる66m00をマーク。決勝に2位で通過し、以降記録を伸ばすことはできなかったものの全て60mを越えた。この調子で七大戦の大会新を期待したい。

高橋は1年生ながらも健闘した。1投目から51m96を投げ、惜しくも決勝へは進めなかったが今後の活躍を予感させた。

伊勢はなかなか思うような投げができなかったが、3投目に49m08をマークした。全体的にやりが上に上がりすぎていたため、今後はやりに前への力をより伝えられるよう練習に励んでほしい。

混成競技

男子十種競技

3位 藤井 翼(2) 総合得点 5311

11"80(+2.3)-6m24(+2.8)-9m34-1m65-53"68-17"66(-0.9)-28m26-3m20-38m34-4'58"67

4位 渋谷 知暉(2) 総合得点 5196

11"97(+1.3)-6m16(+1.9)-8m20-1m75-55"82-16"62(-0.6)-23m92-3m10-44m60-5'12"91

9位 八柳 暁(2) 総合得点 3926

12"37(+2.3)-5m33(+0.9)-7m54-NM-54"59-20"01(-0.6)21m43-2m70-35m24-4'46"81

昨年に続き、藤井、渋谷、八柳が出場。

藤井は走幅跳と円盤投がさえた。得意の棒高跳で失敗したがそれをカバーし、自己ベストで3位。今後はやり投でも高得点をとれるようになりたいところだ。

渋谷は棒高跳で調子良かった。得意の110mHで思うような結果は出せなかった

が総合で 5000 点は越え藤井に続き、4 位。
今後の課題は 400m や 1500m といったスタ
ミナを要する種目であろう。

八柳はあまり振るわなかった。得意種目
の 1500m はさすがであったが、跳躍種目で
もう少し頑張りたいところだ。

自己記録更新者一覧(3/7~5/16)

男子

・ 100m

中野 一誠(M2) 11"79 (東北インカレ)

・ 400m

鈴木 孝幸(4) 52"94 (学連春季)

辻川 優祐(2) 53"97 (学連春季)

・ 1500m

菅野 均(2) 4'17"67 (学連春季)

近藤 一樹(2) 4'18"51 (学連春季)

高田 健吾(2) 4'21"06 (学連春季)

・ 5000m

石代 剛之(2) 16'13"60 (学連春季)

杉山 祥太郎(2) 16'17"63 (学連春季)

・ 110mH

一ノ倉 聖(4) 15"54 (宮城県春季)

・ 400mH

一ノ倉 聖(4) 57"96 (学連春季)

・ ハーフマラソン

島田 健作(M2) 1"09'35" (立川ハーフ)

早坂 達也(4) 1"09'45" (立川ハーフ)

林 亮輔(M2) 1"10'06" (黒部名水マラソン富山)

・ やり投

杉本 和志(3) 66m00 (東北インカレ)

・ 十種競技

藤井 翼(2) 5311 点 (東北インカレ)

女子

・ 5000m

小高 真衣(2) 21'22"78 (学連春季)

#今後の予定

6月12～13日 北日本インカレ 円山陸上競技場
6月26日 北大戦 厚別陸上競技場
7月31～8月1日 七大戦 瑞穂陸上競技場

※北大戦、七大戦に出場したいという方がおられましたら、お早めのご連絡をお願いします。
詳しくは東北大学陸上競技部のホームページをご覧ください。

<http://cobalt.cneas.tohoku.ac.jp/users/sansyu/>

#編集後記

まず、副務からお願いがあります。住所などに変更がございましたら、副務までご連絡をお願いします。

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

今年度も新入部員が多く集まりました。40人くらいです。昨年度から部員数が増える一方です。もう部室には部員全員が入らないほどです。僕の学年は人数が少ないだけに羨ましかげりです。部員数が多いと大変なのは、やはり遠征の大会でしょう。北海道までの旅行プランなど考えるのも一苦労ではないでしょうか。プランを考える渉外の方には「お疲れ様です。」と言っておきます。まあ部員数が多いことは良いことですから、うれしい苦労ってところですかね。

人数が多いだけと言われないように頑張りますので、今後の活躍にご期待下さい。

文責 副務 杉本 和志